

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社JVCケンウッド長野					
代表者名	氏名	白須 良	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県伊那市西箕輪2676-1					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	30 情報通信機械器具製造業				
主たる事業の概要	カーナビゲーションの製造					
制度に該当する要件	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	530.79	520.00	575.56	728.83	
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	996.39	977.00	1,087.25	1,330.73	
その他ガス排出量合計	t-CO ₂					
自動車の台数	台	3		2	2	
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂					

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2020	年度	計画期間	2021 年度～	2022 年度
報告対象年度	2022	年度			

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	https://nagano.jvckenwood.com/
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

様式1号
(総括票)

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

<環境ビジョン>
JVCケンウッドグループは、先進の技術力に基づいた製品・サービスの創出および環境活動を通じて、すべてのステークスホルダーとともに現在だけでなく将来にわたり、地球環境を保全し、健全で持続可能な社会の実現に貢献します。

<環境基本方針> (JKグリーン2025)
JVCケンウッドグループは、環境ビジョンに基づき、すべての製品と事業活動において環境法を遵守し、地球の財産である「エネルギー」「資源」「生物」の持続的な利用と共生に貢献します。その実現に向けて、以下の上ような環境4項目を重点とした目標を設定し、実行します。

- 【重点項目①】 気候変動への対応：2050年カーボンニュートラルを実現
- 【重点項目②】 資源の有効活用：ゼロエミッションの実現 (3Rマネジメント推進)
- 【重点項目③】 環境保全・管理：環境付加化学物質の適正管理
- 【重点項目④】 生物多様性の保全：生態系の維持

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制

- ・ 温暖化対策責任者：管理部 部長
- ・ 計画書提出担当者：管理部 事業管理グループ 総務チーム
- ・ 温暖化対策担当者：管理部 事業管理グループ 総務チーム チームリーダー

5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

- ・ JVCケンウッドグループISO14001推進委員会 (1回/月開催)

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	996.39	t-CO ₂	売上加工高	718.83	単位	百万円
2020年度	調整後排出量	996.39	t-CO ₂	基準原単位	1.39	t-CO ₂ /	百万円
目標年度	目標排出量	977.00	t-CO ₂	目標原単位	1.36	t-CO ₂ /	百万円
2022年度	目標削減率	1.94	%	目標削減率	2.00	%	
目標設定に関する説明	1.0%以上/年の削減。基準年度 2020年度から2.0%の削減目標とした。						
第一年度	排出量	1,087.25	t-CO ₂	売上加工高	666.58	単位	百万円
	削減率	-9.12	%	原単位	1.63	t-CO ₂ /	百万円
2021年度	調整後排出量	1,087.25	t-CO ₂	原単位削減率	-17.27	%	
	削減率	-9.12	%				
排出量等の増減理由	生産増加に伴う熱源設備の増加による。SMTリフロー炉装置等。ただし、半導体等の部品納入遅れによる休業があり売上加工高が落ち込んだ。その間も装置自体の電源は落とせない為、生産が無いにも関わらず装置は動いていたため。						
第二年度	排出量	1,330.73	t-CO ₂	売上加工高	1,511.75	単位	百万円
	削減率	-33.56	%	原単位	0.88	t-CO ₂ /	百万円
2022年度	調整後排出量	1,330.73	t-CO ₂	原単位削減率	36.69	%	
	削減率	-33.56	%				
排出量等の増減理由	生産増加に伴う熱源設備の増加による。PBC工程のスポットリフロー炉の導入で設備増加があったが、ボイラー及び重油地下タンクの使用停止によるCo2排出量が大い。(2022年度重油購入量はゼロ)尚且つ、基準年及び1年度に比べ大幅に売上加工高(原単位)が増加した。						
第三年度	排出量		t-CO ₂	売上加工高		単位	
	削減率		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /	
—年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量		t-CO ₂			単位	
2020 年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2021 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
— 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量		t-CO ₂			単位	
2020年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
—年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分 番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定 年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施 年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	329999	ボイラー及び重油地下タンク全廃	2022	79.00	2022	108.51
2	エネ起	380752	構内蛍光灯を全てLED照明へ変更	2022	2.90		
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満								
合計								

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂				
CH ₄				
N ₂ O				
HFC				
PFC				
SF ₆				
NF ₃				
合計	0	0	0	0

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他 (ハイブリッド等)	3	2	2	
合計	3	2	2	0
自動車総数	3	2	2	
次世代車導入割合	100	100	100	

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	
自転車の利用促進	
来客者の交通対策	
物流の合理化	海外工場生産から国内生産への国内回帰 (Ship輸送エネルギー削減)

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		
	実施内容		実施年度
<input checked="" type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		2021
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している		1998
	名称	ISO14001	
<input type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 支持を表明している		
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input type="checkbox"/> SBT	SBT を策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Action へ参加している	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	・環境教育の実施		2020～2022

1.5 自由記載欄

<ul style="list-style-type: none"> ・電気 (中部電力) から購入に対して、Co2 -20%の電気を購入している。(2023年4月～) ・ISO14001運用管理による、“廃棄物の削減” ・地域貢献活動への自主的参加 ・海外生産から日本国内生産への国内回帰 (船輸送の削減) 検討 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる。 ・3R(リデュース・リユース・リサイクル) に取り組んでいる。 ・天竜川環境ピクニックの開催など、生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している。
--